

むくのきだより



6月号

令和3年5月31日

港区立赤羽幼稚園 園長 宮崎 直人

赤羽幼稚園の誕生日をお祝いました。

園長 宮崎 直人

清々しい初夏を迎え、木々の緑も日増しに濃くなってまいりました。草花や生き物が活発に活動する季節になりました。園児たちは、毎朝楽しそうにプランター等に植えている野菜や花の水やりをしています。オタマジャクシやチョウなど、生き物との触れ合いも楽しんでいきます。さて、5月19日(金)は、赤羽幼稚園の誕生日でした。そこで、開園記念集会を行い、51歳の誕生日を皆でお祝いしました。昨年度は、50周年をお祝いして「ねこまる」が来てくれましたが、今年度は、「ねこまる」が置いていってくれたパペットの「ねこまる」と、友達の「カエルくん」が来てくれました。「ねこまる」の言葉が分かるのは、これまで、昨年度のゆり組の担任をしていた金木先生だけでしたが、「カエルくん」は、「ねこまる」の言葉が分かるそうです。(という設定です。)ずっと赤羽幼稚園を見守ってくれている「ねこまる」は、昔の写真を子供たちに見せながら、「カエルくん」と共に、赤羽幼稚園の歴史を語ってくれました。子供たちはお話を集中して聞いていました。集会の最後に、「ねこまるダンス」も踊りました。



赤羽幼稚園は、昭和45年4月1日に開園しました。開園3時から、年長は、「ゆり組」、年少は、「さくら組」です。当時は、ゆり組もさくら組も40名が通っていました。

10周年記念誌を読んでもと、幼稚園の思い出として、「遠足のときに、バスに乗ってお弁当を食べたこと」「親子遠足でお芋掘りに行って、土の中から大きな芋が出てきたこと」「お誕生会が好き」「プールが楽しかった」「ピロティで鬼ごっこをして遊んだことが楽しかった」等、今と同じような楽しい活動が色々あったことが分かります。

また、当時の幼児の姿として、「保育室、遊戯室、ピロティ、校庭と自由に駆け回り、自分の欲求に合った遊びを汗びっしょりになりながら堪能しています。」と書かれています。「赤羽幼稚園の園児たちは、今も昔も変わらずに、元気一杯、仲よく楽しく遊んでいたのだな」と思いました。創立3年目には、園舎改築のため、仮園舎で生活したこともあったようです。その当時の園児や先生方の思いを読むと、51年間の歴史の重さを感じます。これからも、歴史と伝統を生かして保育を進めてまいります。



50年前の集合写真



昨年度実施した記念式典

5月20日(木)には、5月のお誕生会を行いました。感染症予防対策として、ゆり組とさくら組に分かれて実施しました。さくら組のお誕生会のときにも、ゆり組の子供たちが、交替で司会を

立派に務めてくれました。今月も、「園長先生のお友達」がプレゼントを持ってきてくれました。「お楽しみ」は、高田副園長先生が、紙芝居をしてくれました。子供たちは、とても楽しそうに見ていました。



緊急事態宣言が、6月20日まで延長されることになりました。様々な制限は続きますが、保育が充実するよう、教職員一同頑張っていきたいと思えます。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

